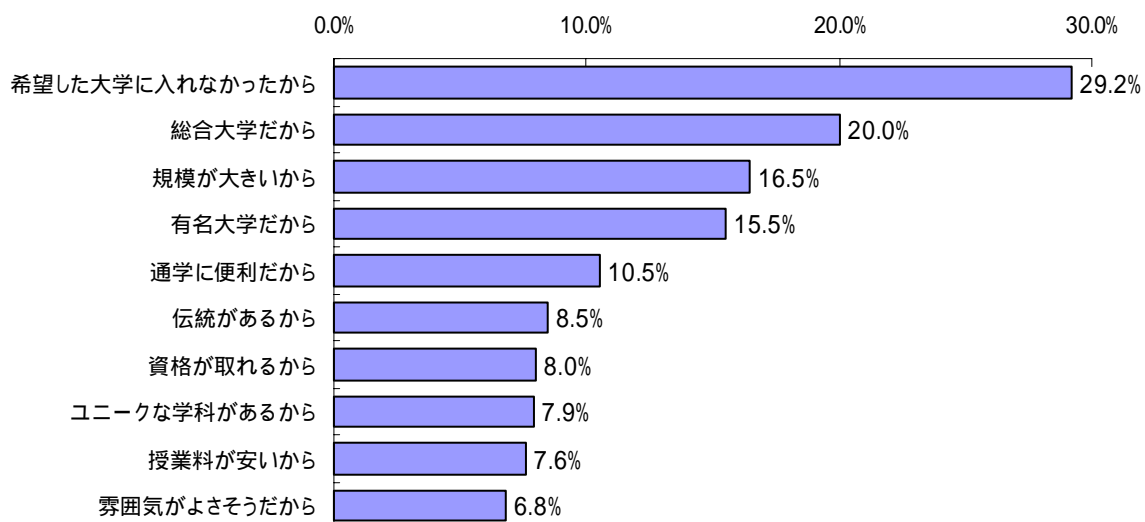


第7章 入学から現在までの意識・行動について

1. 日本大学に入学を決めた理由

入学を決めた理由として23項目の選択肢が用意されているが、最も多い理由は、「希望した大学に入れなかった」(29.2%)があげられている。第2位は「総合大学だから」(20.0%)、次いで「規模が大きいから」(16.5%)、「有名大学だから」(15.5%)、「通学に便利」(10.5%)、「伝統があるから」(8.5%)、「資格が取れるから」(8.0%)、「ユニークな学科があるから」(7.9%)、「授業料が安いから」(7.6%)、「雰囲気良さそうだから」(6.8%)の順になっている。

図7-1 入学を決めた理由(3つ以内)



文科系の学部とくに法、文理、経済、商学部の場合、「希望した大学に入れなかったから」という理由が多い。

芸術学部はそのユニークさが理由となっている。

医学部、薬学部は総合大学であることが理由として多くあげられている。さらに、医学部の場合、「伝統」と「資格」が大きな理由となっている。

歯学部、松戸歯学部の場合、「資格が取れる」ということが大きな理由となっている。

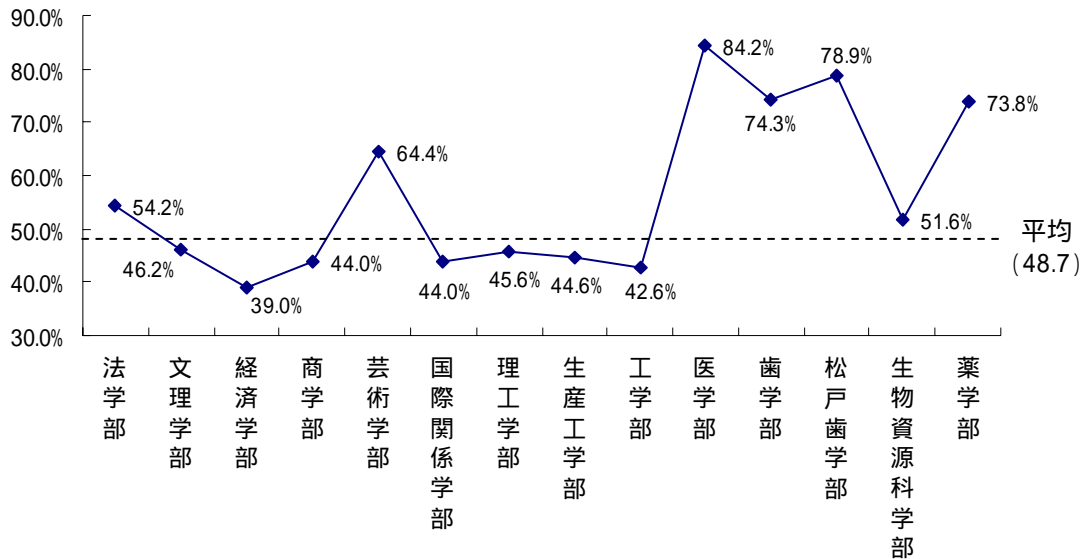
表7-1 学部別入学決心の理由(3つ以内)

	れ希 な望 かした た大 学に 入	総 合 大 学 だ か ら	規 模 が 大 き い か ら	有 名 大 学 だ か ら	通 学 に 便 利 だ か ら	伝 統 が あ る か ら	資 格 が と れ る か ら	あ る 二 か ー ク な 学 科 が	授 業 料 が 安 い か ら	だ 霧 か 困 ら が よ さ そ う
全 体	29.2	20.0	16.5	15.5	10.5	8.5	8.0	7.9	7.6	6.8
法学部	39.9	20.1	15.5	21.1	9.7	13.0	8.9	5.6	19.1	4.3
文理学部	34.4	22.6	17.2	15.2	9.0	8.5	11.1	5.7	13.0	10.6
経済学部	35.4	16.3	18.7	21.1	18.7	6.9	2.0	1.6	13.8	6.1
商学部	36.3	23.2	15.8	22.9	5.7	9.5	12.5	0.9	11.3	6.8
芸術学部	8.4	15.1	4.4	11.4	6.4	10.4	1.3	46.0	9.4	16.1
国際関係学部	25.3	18.4	18.3	21.5	11.3	9.2	5.1	7.3	1.9	5.1
理工学部	24.2	23.0	18.0	9.8	9.7	9.0	3.6	8.7	2.0	4.8
生産工学部	23.0	24.7	22.8	16.8	10.7	8.8	5.8	5.1	1.9	3.1
工学部	29.2	12.1	23.2	21.8	10.1	7.4	5.0	0.3	1.3	3.7
医学部	25.3	32.9	10.8	5.1	7.0	14.6	15.2	0.6	2.5	5.1
歯学部	17.1	17.6	6.8	4.5	13.1	12.6	32.0	0.9	1.8	3.2
松戸歯学部	17.7	26.4	15.5	5.3	8.7	6.8	29.8	0.4	0.8	6.4
生物資源科学部	30.4	15.1	11.5	4.7	12.0	3.0	11.1	12.0	1.9	9.7
薬学部	31.8	37.9	8.9	5.1	13.6	2.3	37.9	0.5	-	5.6

2. 入学直後の意識

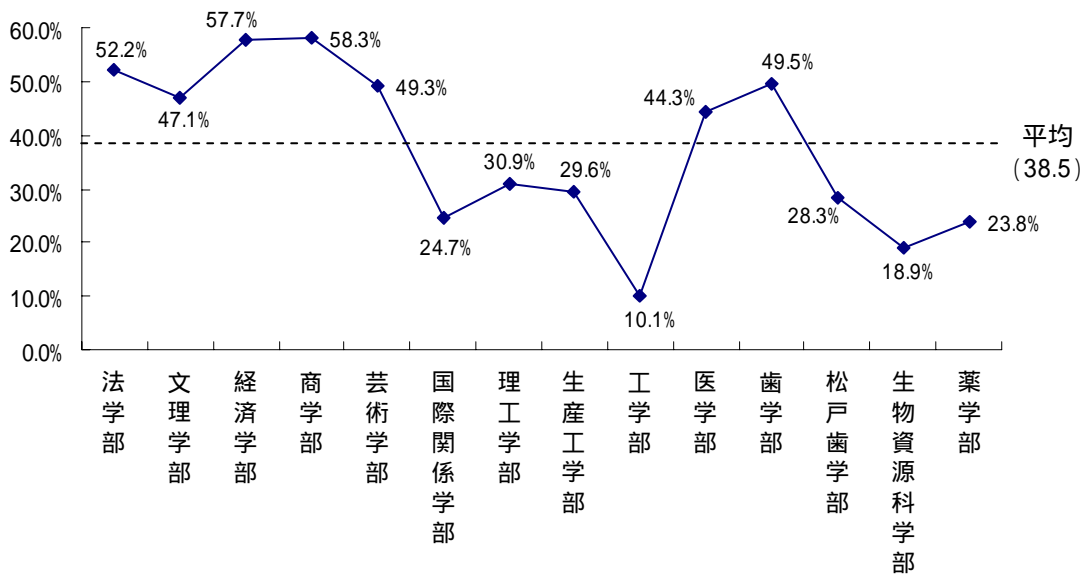
(1) 「卒業後の進路・就職を意識していた」

医・歯・薬学系の学生の70%以上が将来の職業を意識している。また、芸術学部
の64.4%の学生が将来の仕事を意識している。



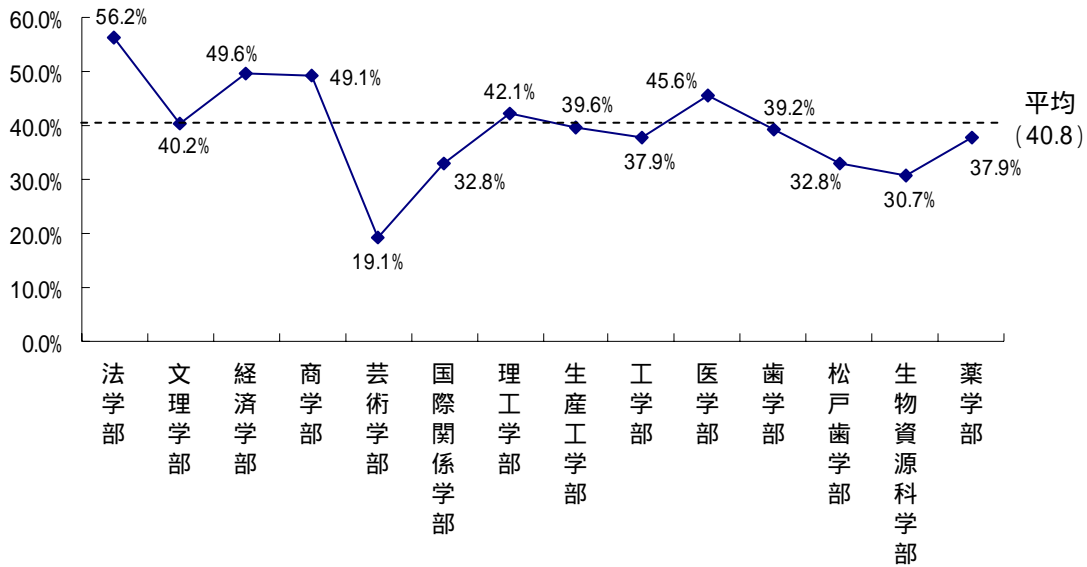
(2) 「東京の大学に入学したかった」

法、文理、経済、商学、芸術、医学、歯学部の学生の約50%が大学は東京の大学に入りたい
と考えていたようである。



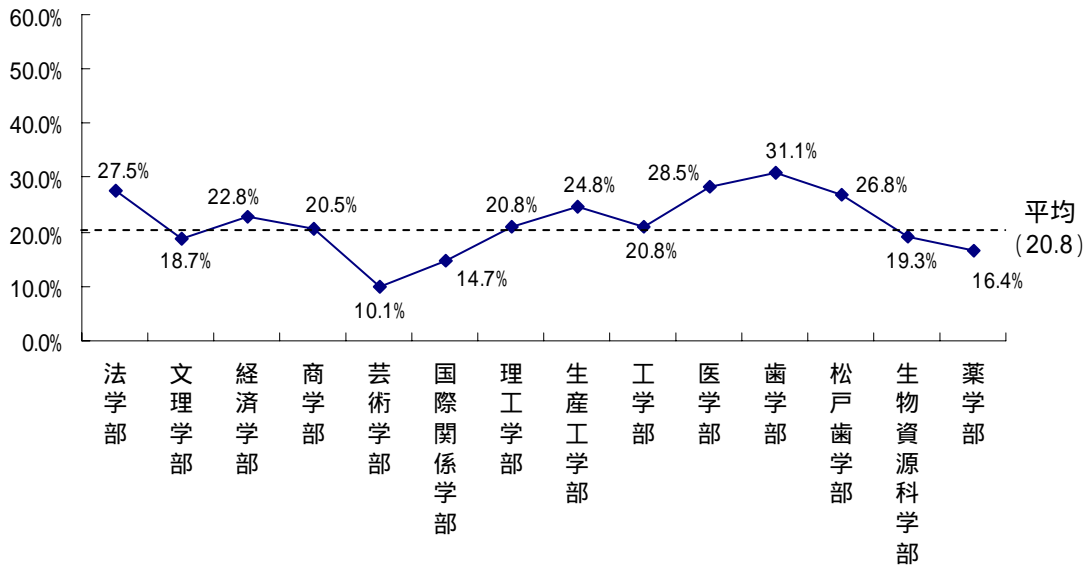
(3) 「日本大学よりも高い水準の大学へ入学したかった」

法学部、経済学部、商学部、医学部で日大よりも水準の高い大学へ入学したかったという学生が多い。



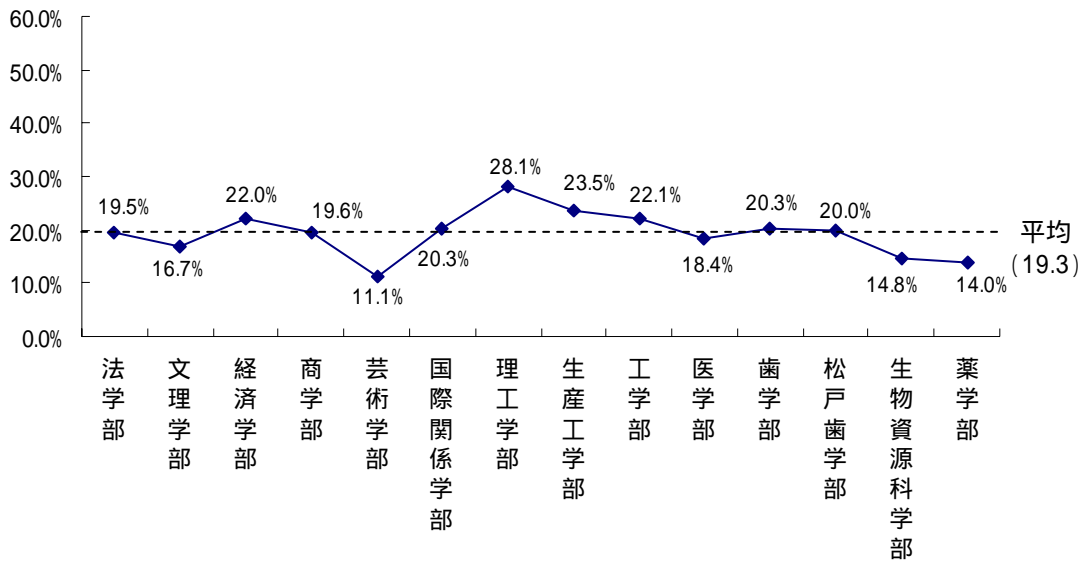
(4) 「入学するか、浪人するかで悩んだ」

全体で約20%の学生が、「入学するか、浪人するかで悩んだ」と回答しているが、芸術学部、国際関係学部、薬学部で悩んだ学生は少ない。



(5) 「日本大学に来るべきでなかった」

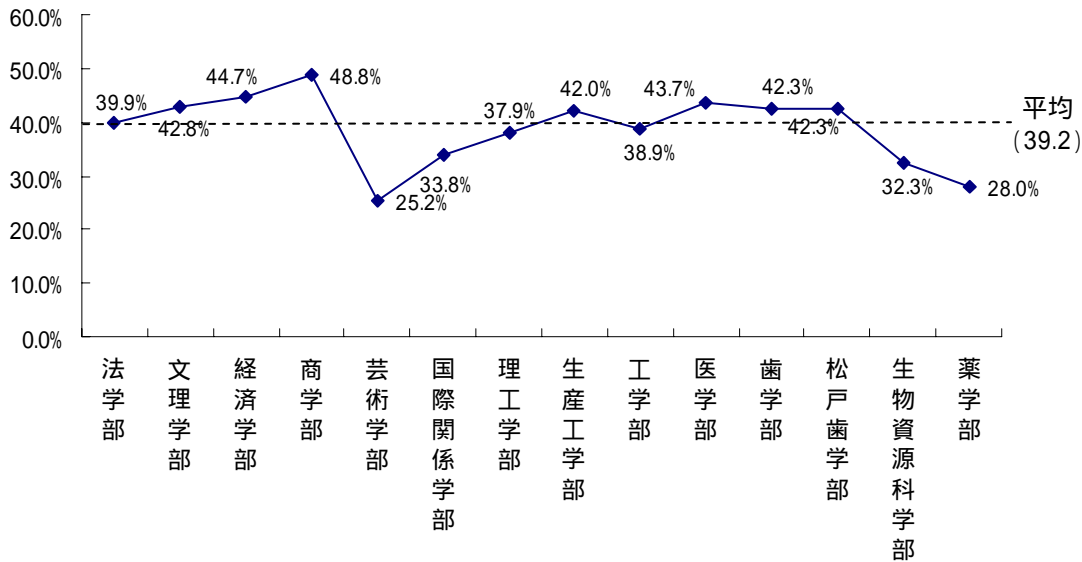
芸術学部、生物資源科学部、薬学部で不本意な入学をしたものは少ない。



(6) 「入学してからさあ遊べと思った」

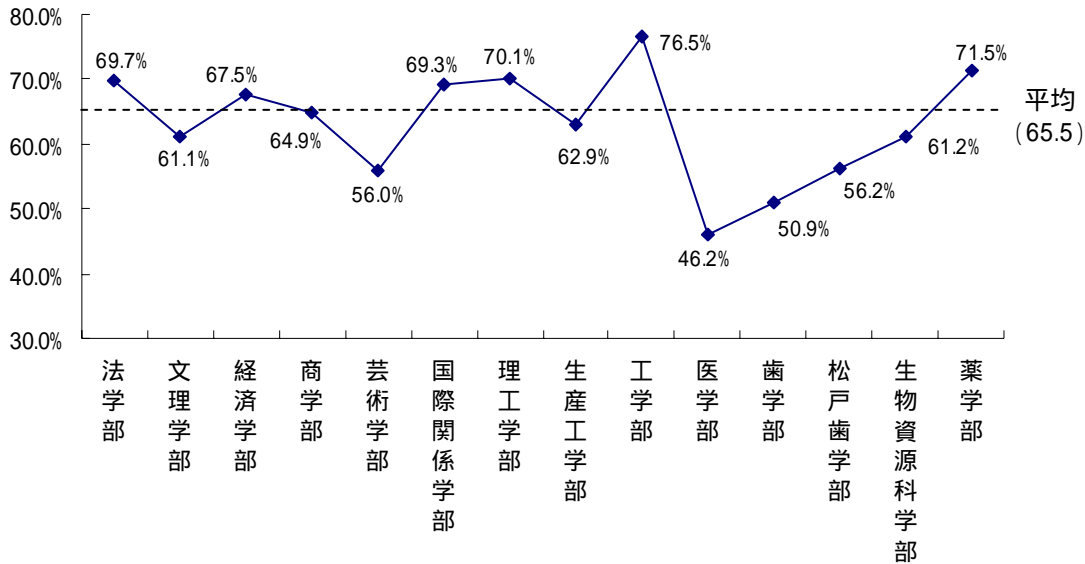
芸術学部、国際関係学部、生物資源学部、薬学部では、この意見を持った学生は少ない。

高校生には授業や学問の内容が想像できない領域であることが反映されている。



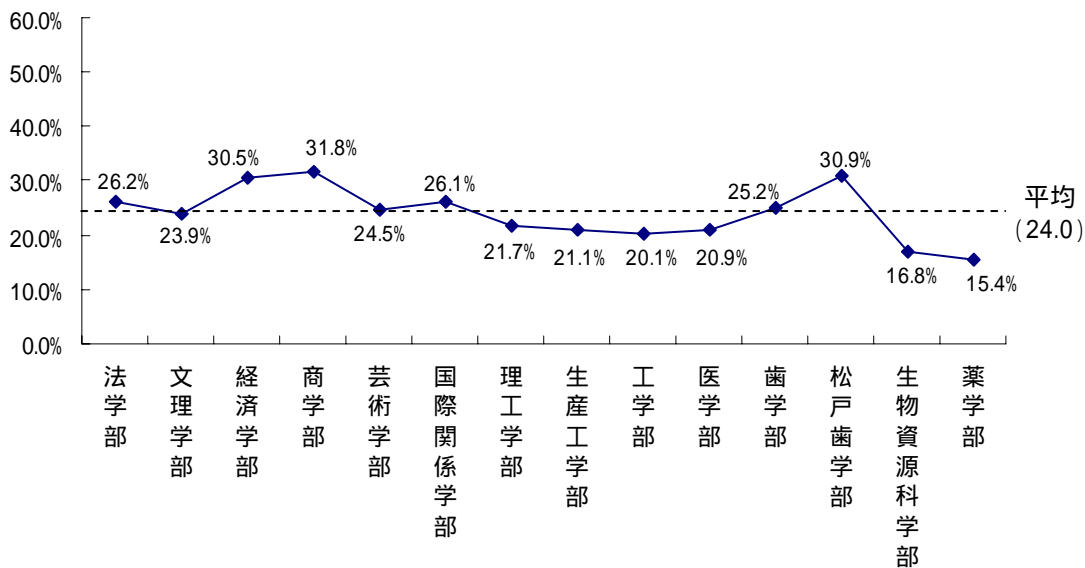
(7) 「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」

「はい」と回答した学生の比率は、全体で65.5%と多いが、芸術学部、医学部、歯学部、松戸歯学部の学生の比率が低い。



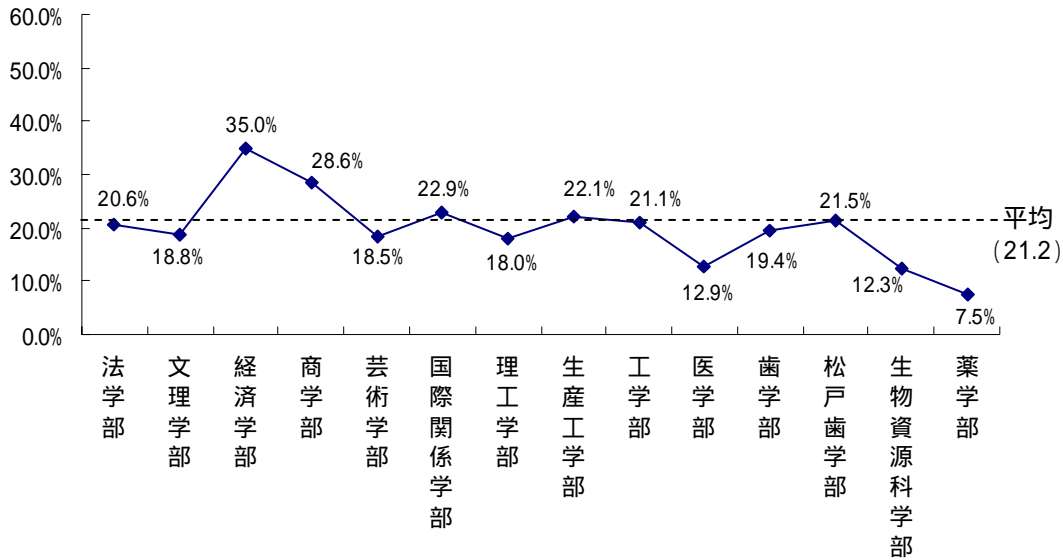
(8) 「大学の雰囲気になじめなかった」

「はい」と回答した学生の比率は24.0%で4人中1人程度である。経済学部、商学部、松戸歯学部で比率が高くなっている。一方、生物資源学部、薬学部の学生の中には、「なじめなかった」と回答している学生は少ない。



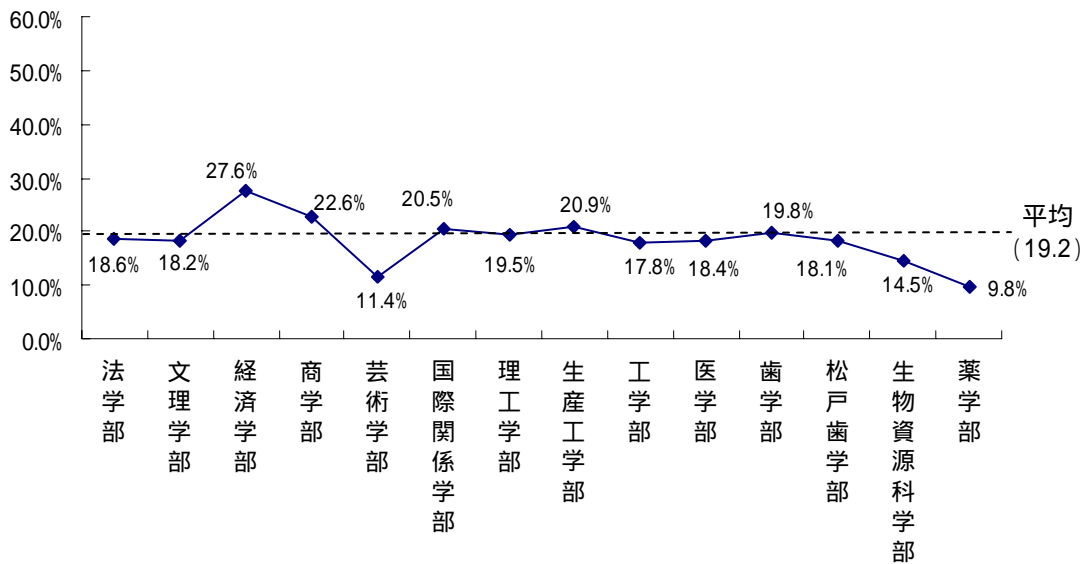
(9) 「自分よりも頭のいい者が周りにはほとんどいないと感じた」

5人に1人が「はい」と回答している。経済学部で35.0%と多く、生物資源学部(12.3%)、医学部(12.7%)、薬学部(7.5%)で少ない。



(10) 「日本大学に入学したが惨めで積極的になれなかった」

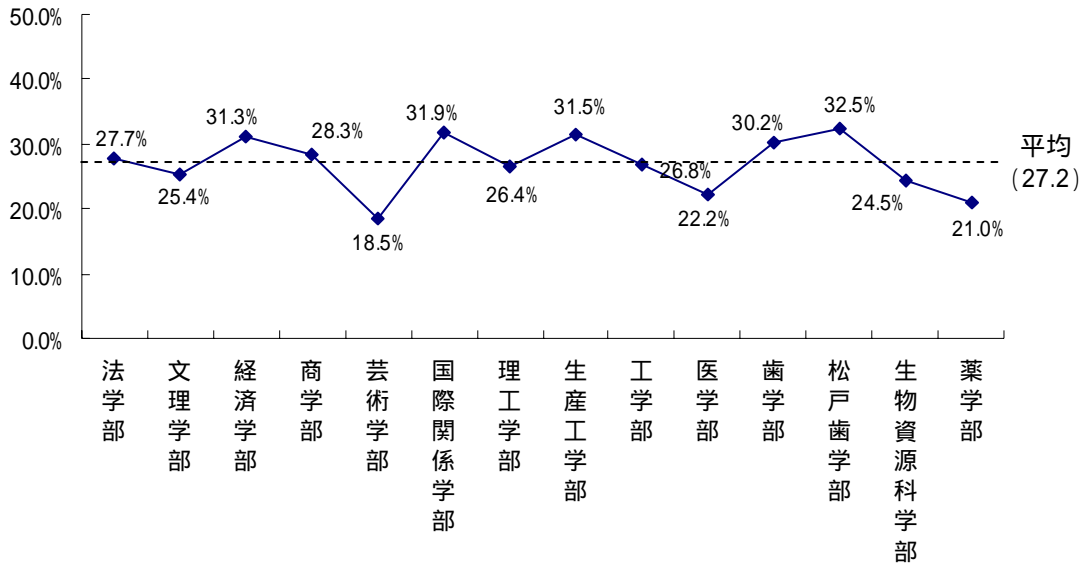
経済学部(27.6%)と芸術学部(11.4%)、薬学部(9.8%)を除くと全体的に差がなく19%程度の比率である。



(11) 「他大学への再受験を考えたことがあった」

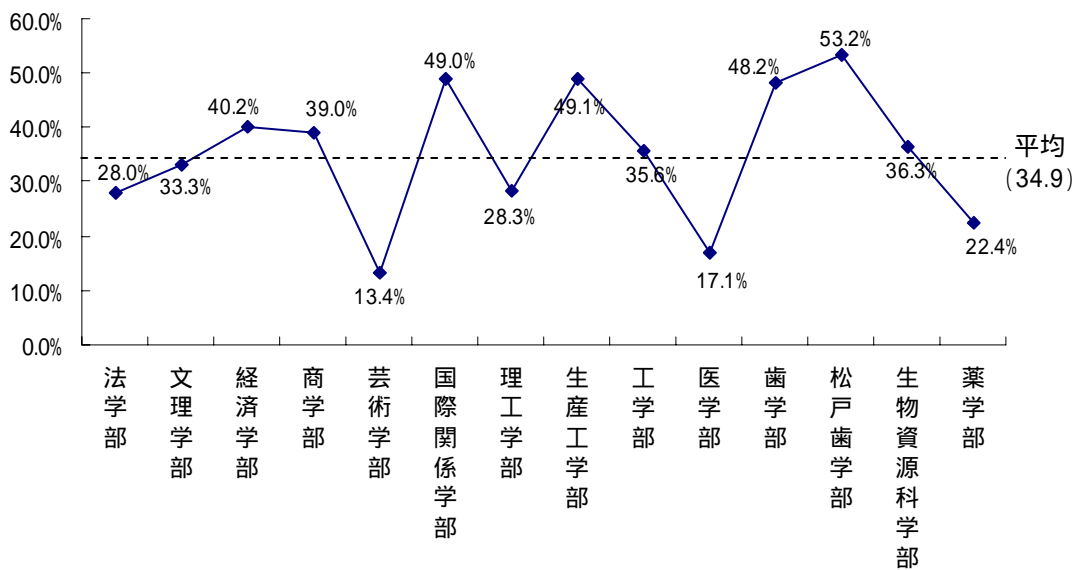
経済学部 (31.3%)、国際関係学部 (31.9%)、生産工学部 (31.5%)、松戸歯学部(32.5%)
で再受験を考えた学生が多くなっている。

一方、芸術学部 (18.5%)、医学部 (22.2%)、薬学部 (21.0%) では少ない。



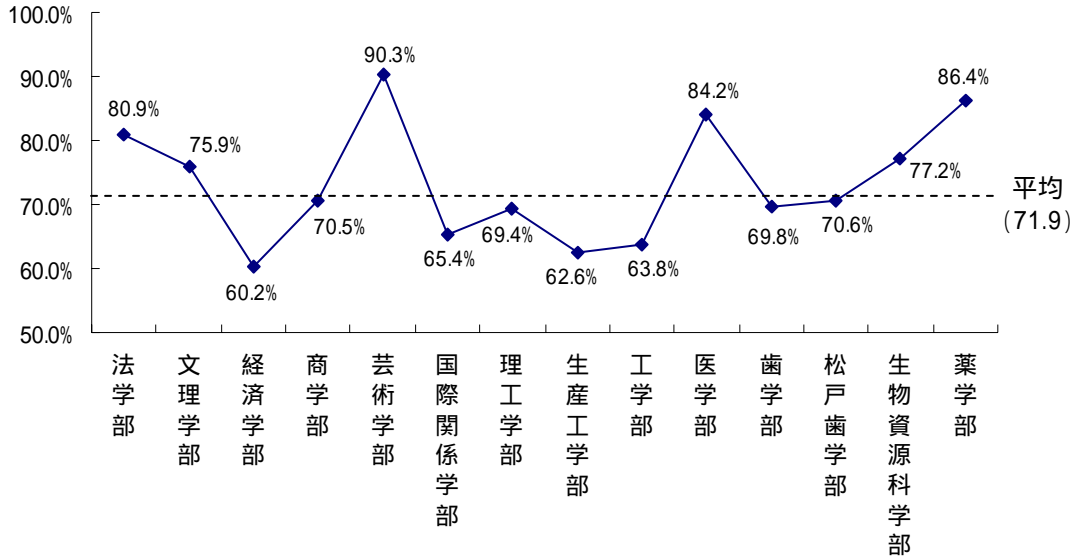
(12) 「他の学部、他の学科に本当は入りたかった」

最も直接的な不本意入学を示す意見であるが、これに対し、全体では34.9%の学生が「はい」と回答している。松戸歯学部(53.2%)、生産工学部(49.1%)、国際関係学部(49.0%)で多く、
芸術学部 (13.4%)、医学部 (17.1%)、薬学部 (22.4%) で少なくなっている。



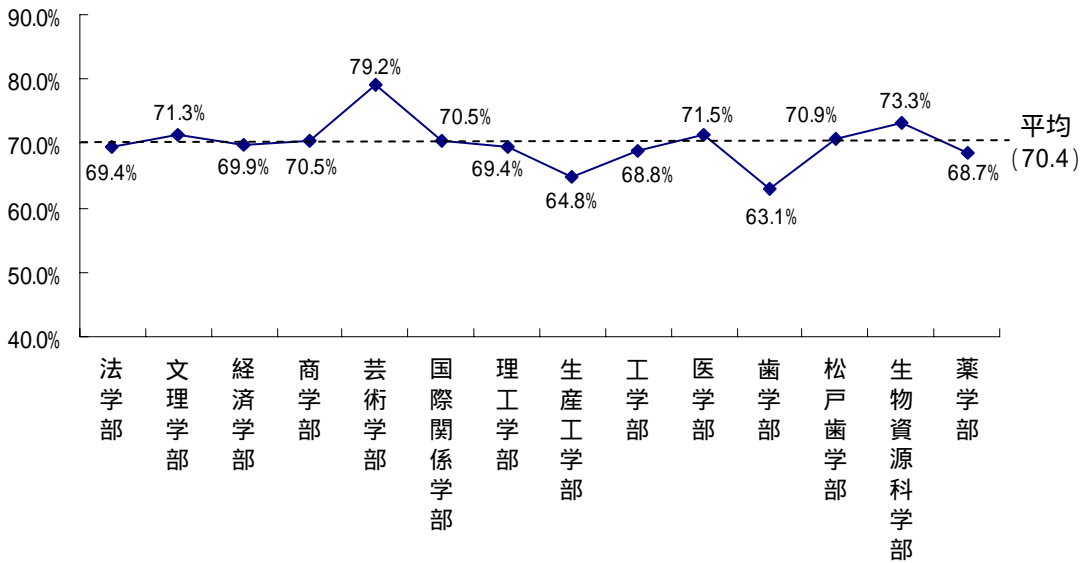
(13) 「今の学部に入って良かった」

全体の71.9%の学生が今の学部に入学したことを「良かった」と評価している。とくに、芸術学部(90.3%)、薬学部(86.4%)、医学部(84.2%)で多く、経済学部(60.2%)、生産工学部(62.6%)、工学部(63.8%)で少なくなっている。



(14) 「日本大学に入って良かった」

全体の70.4%の学生が日本大学に入学したことを「良かった」と評価している。各学部での「はい」と回答した学生の比率は、一番多い芸術学部(79.2%)と一番少ない歯学部(63.1%)の差が16.1%と小さい。



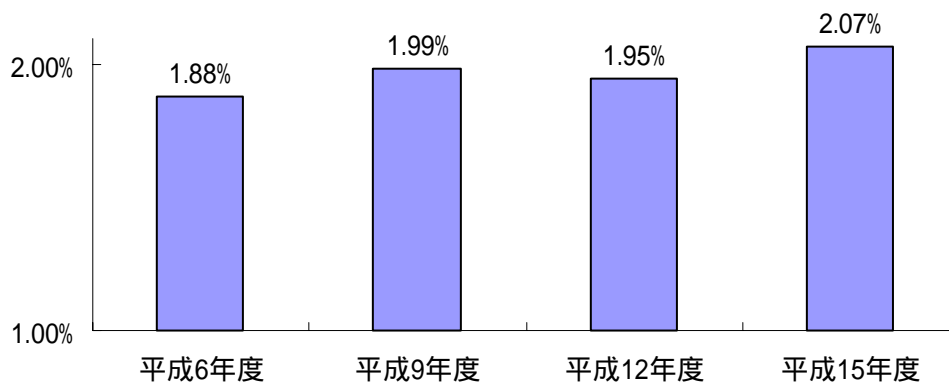
3. 不本意入学意識

(1) 不本意入学意識の経年変化

不本意入学意識は、増加傾向。

不本意入学得点をもとに、不本意入学意識の経年変化をみると、平成6年度（1.88）から平成9年度（1.99）にかけて増加したが、平成12年度は1.95で不本意入学学生は減少した。しかし、平成15年度になって再び増加している。

図7-3 不本意入学得点の経年変化



(注) 問25 入学から現在までの意識・行動の設問のうち、以下の各項目に「はい」と答えた場合に1点を計上し、8項目の合計を「不本意入学得点」とした。得点が高いほど不本意意識が強いことを示す。経年変化をみるために設問項目が異なる昭和63年度と平成3年度は除外した。

- (3) どうしても日本大学より高い水準の大学へ入学したかった
- (4) 日本大学に入学するか浪人するか悩んだ
- (5) 自分は日本大学に来るべきではなかった
- (8) 大学の雰囲気はどうしてもなじめなかった
- (9) 自分より頭のいい者が周りにはほとんどいないと感じた
- (10) 日本大学に入学したが惨めで積極的になれなかった
- (11) 他大学への再受験を考えたことがあった
- (12) 他の学部、他の学科に本当は入りたかった

(2) 学部別不本意入学意識

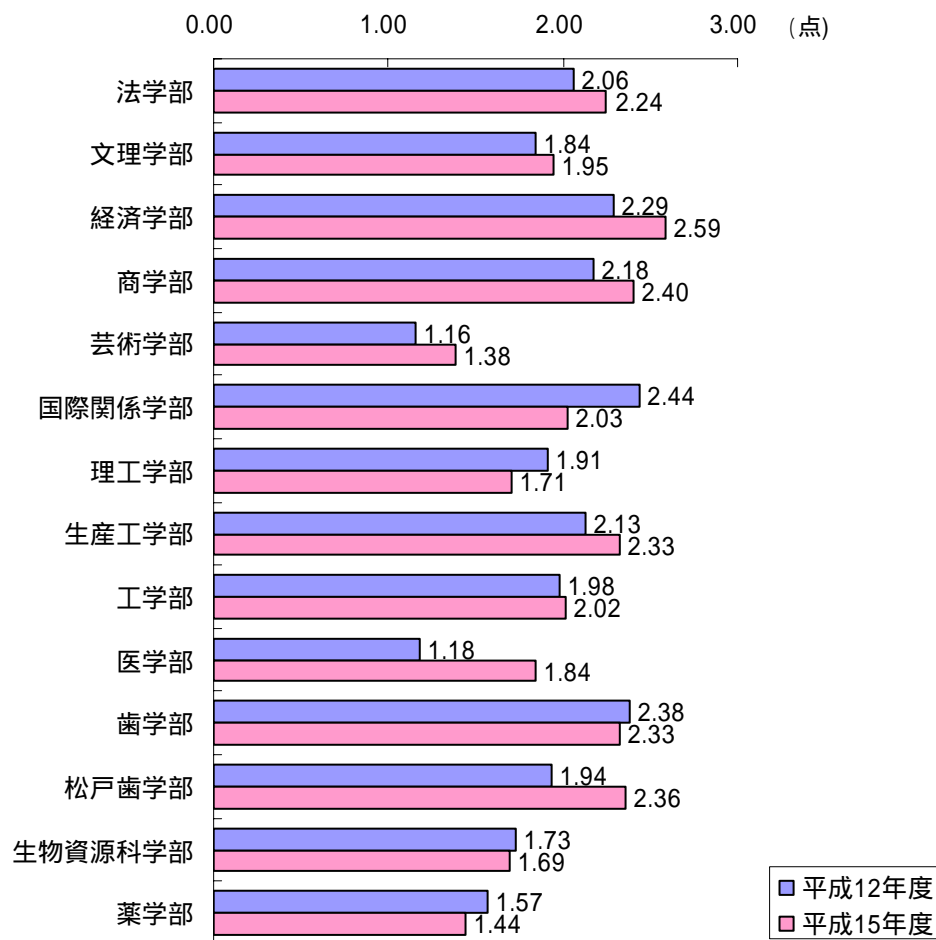
不本意入学意識が低いのは、芸術学部と薬学部である。

不本意入学意識が高い（2.0点以上）学部は、国際関係学部（2.03）、松戸歯学部（2.36）、経済学部（2.59）、商学部（2.40）、生産工学部（2.33）、法学部（2.24）、工学部（2.02）、および歯学部（2.33）である。

反対に低い（1.50点未満）のは、芸術学部（1.38）と薬学部（1.44）である。

全体的に不本意入学意識が前回調査結果よりも高くなっているが、生物資源学部、薬学部では低くなっている。

図7-4 不本意入学得点の学部別比較



4. 帰属意識と情報の熟知度

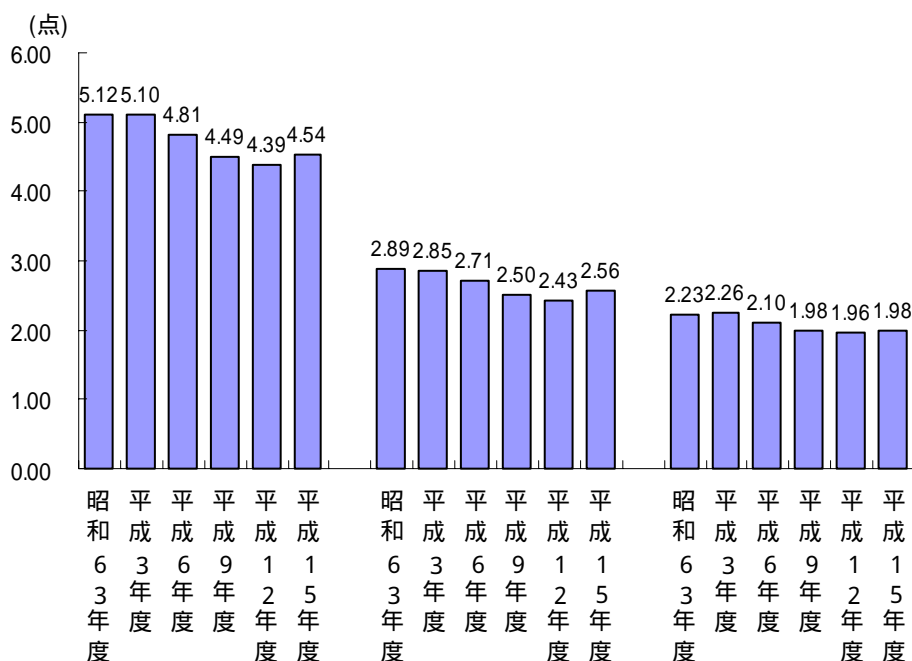
(1) 帰属意識の経年変化

帰属意識は、年々低下する傾向にある。

帰属意識の経年変化をみると、昭和63年度(5.12)、平成3年度(5.10)、平成6年度(4.81)、平成9年度(4.49)、平成12年度(4.39)と得点が年々減少していたが、平成15年度には、4.54にまで高まることとなった。

また、大学帰属意識は昭和63年度の2.89点から平成12年度の2.43点へ、そして平成15年度2.56点にまで増加に転じ、学部帰属意識も平成12年度1.96点から15年度の1.98点に増加した。

図7-5 帰属意識得点の経年変化



(注) 問25 入学から現在までの意識・行動の設問のうち、以下の各項目に「はい」と答えた場合に1点を計上し、10項目の合計を帰属意識得点とした。
 なお、帰属意識得点は大学帰属意識得点と学部帰属意識得点とで構成されており、下記の設問番号横の 印は大学帰属意識得点項目を、* 印は学部帰属意識得点項目をあらわしている。

- (16) 日本大学に入って良かった
- (17) 入学直後に比べると日本大学の良さを認めるようになった
- (34) 「日大生」であることを誇りに思っている
- (35) 日本大学出身者は社会に出てから有利だと思う
- (36) 日本大学は今後益々世間で評価されると思う
- (39) 自分の子供・身内にも将来は日本大学で学んでもらいたい
- * (15) 今の学部に入って良かった
- * (31) 自分の学部に誇りをもっている
- * (32) 自分の学部の出身者は社会に出てから有利だと思う
- * (33) 自分の学部は今後益々世間で評価されると思う

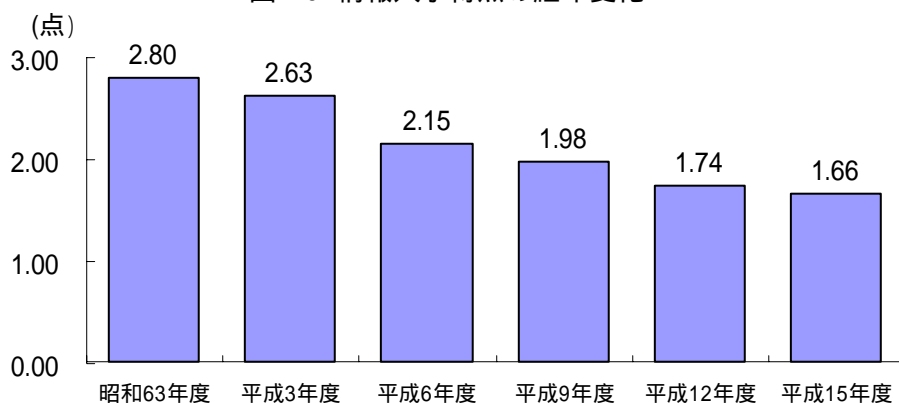
(2) 日本大学情報の熟知度の経年変化

日本大学情報の熟知度は、年々低下している。

日本大学新聞、機関誌等の閲読率や総長や学部長の名前を知っているかどうかから情報入手得点を算出し、その結果の経年変化をみると、昭和63年度(2.80)、平成3年度(2.63)、平成6年度(2.15)、平成9年度(1.98)、平成12年度(1.74)、平成15年度(1.66)と低下傾向にある。

帰属意識の低下、不本意入学意識の上昇等を考慮しても、日本大学に対する学生自身の関心が年々減少し、大学や学部としての社会性、組織性を失いつつあるのではないかという心配がある。

図7-6 情報入手得点の経年変化



(注) 問25 入学から現在までの意識・行動の設問のうち、以下の各項目に「はい」と答えた場合に1点を計上し、7項目の合計を日本大学情報入手得点とした。得点が高いほど日本大学を熟知していることを示す。

(40) 「日本大学新聞」をよく読んでいる

(41) 自分の学部の機関紙(広報誌)をよく読んでいる

(42) 日本大学校歌(一番)の歌詞を見ないで歌える

日本大学の本部(日本大学会館)のある場所を知っている(平成15年削除)

(43) 大学のHPをよく見ている(平成15年追加)

(44) 学部のHPをよく見ている(平成15年追加)

(45) 自分の学部の学部長の名前を知っている

(46) 日本大学の総長の名前を知っている

(47) 日本大学の学祖の名前を知っている

5. 現在の意識・行動

(1) 現在の意識・行動の経年変化と特徴

33項目の中から特徴を整理すると以下の点が指摘できる。

大学の良さを認め、勉学意欲がもてるようになったという学生が増加する傾向にある。

自分自身に対する自信を深める学生が減少傾向にある。

基礎学力に不足を感じている学生が70%以上を占め、補習を求める学生が全体の50%を超えている。

日大生としての誇り、学部に対する誇りは高まる方向にはない。

大学新聞、学部機関誌を読む学生は年々減少してきており、平成15年度の調査時点で、いずれも15%台にまで低下してきている。

大学のHPをよく見るという学生は15.9%だが、学部のHPを見る学生は24.8%と多い。

学部長名、学長名、学祖名（日本大学各学部の歴史や個性と考えられる）を知っている学生が年々減少してきている。

逆にいうと、知らない学生が増加してきている。

表7-2 現在の意識・行動の経年変化（「はい」の％）

（単位：％）

	昭和 63年度	平成 3年度	平成 6年度	平成 9年度	平成 12年度	平成 15年度
日大の良さ認める	58.3	56.0	53.3	50.3	52.1	58.3
勉強意欲が持てる	-	-	34.6	35.5	41.3	43.7
将来の希望持てる	-	-	33.6	33.0	32.5	32.1
自分に自信がついた	-	-	40.0	37.9	38.6	34.8
人間性が豊になった	-	-	61.0	57.5	61.4	58.7
着々と勉強の成果をあげている	-	-	-	-	28.7	28.7
創造性が養われた	-	-	42.0	39.2	38.5	39.7
基礎学力の不足を痛感する	-	-	-	-	74.3	73.8
必要な基礎学力は補習して欲しい	-	-	-	-	51.1	55.6
目標をもって勉強している	45.9	42.7	44.0	42.7	45.3	46.3
将来の職業ははっきりしている			51.3	47.6	50.1	48.1
大学生だからできた体験あり	67.2	69.4	65.4	62.7	64.9	-
ぼんやり過ごす時間が多い	57.5	55.9	55.9	5.71	52.6	55.5
良い影響を受ける教員に出会えた			40.0	40.1	43.0	43.6
学部に誇りを持っている	57.7	54.8	52.5	47.7	47.8	46.3
学部出身者は社会に有利	51.2	49.6	42.4	41.8	38.8	39.7
学部は今後評価される	52.0	50.9	42.0	38.4	37.7	39.9
日大生の誇り持っている	46.3	47.6	47.4	42.8	41.6	39.9
日大出身者は社会に有利	45.4	48.0	43.3	39.9	35.8	37.1
日大は今後評価される	47.3	45.5	37.4	32.1	28.4	33.9
自分の身内を入れたい	18.9	15.6	16.2	14.6	13.7	16.5
自分の才能伸ばしてくれる	-	-	30.9	28.6	29.3	32.7
日大スポーツ活躍は誇りだ	-	-	-	49.4	52.1	52.4
日大スポーツ応援に行った	-	-	-	15.1	12.7	15.3
日大スポーツ情報欲しい	-	-	-	40.1	38.3	41.8
日大スポーツを見に行きたい	-	-	-	-	-	42.1
日本大学新聞を読んでいる	31.0	26.5	26.5	25.2	18.6	15.0
学部の機関紙を読んでいる	31.7	23.4	24.0	23.9	19.3	15.8
校歌の歌詞を見ないで歌える	32.2	26.2	23.0	20.1	16.7	15.1
日大HPをよく見ている	-	-	-	-	-	15.9
学部HPをよく見ている	-	-	-	-	-	24.8
本部の場所を知っている	40.5	39.3	32.5	31.1	30.3	-
学部長名を知っている	59.8	55.5	47.6	43.4	40.2	36.2
総長名を知っている	48.7	44.2	23.9	23.2	21.0	21.4
学祖名を知っている	43.1	48.3	37.6	31.0	27.8	22.2

(2) 日常生活および個人活動の経年変化

食事について

「栄養バランスを考えている」という学生が50%を超えており、年々増加する傾向にある。

「朝食を食べないことが多い」という学生は、減少傾向にあるものの、今回の調査時点で、38.9%（平成3年度は43.7%）いる。

「夕食は外食が多い」という学生が、全体の24.6%で4人に1人は外食していることになる。

また、そのためか、「夕食は1人で食べている」という学生が増加しており、全体の41.3%（平成3年度は35.3%）を占めている。

表7 - 3 食事について（「はい」の%）

（単位：%）

	昭和 63年度	平成 3年度	平成 6年度	平成 9年度	平成 12年度	平成 15年度
朝食を食べないことが多い	-	43.7	38.3	40.1	38.3	38.9
夕食は外食が多い	-	25.8	23.8	25.6	23.2	24.6
夕食は1人で食べている	-	35.3	37.6	40.9	41.3	41.3
栄養バランスを考えている	-	46.7	48.5	48.7	50.5	50.9

睡眠・健康について

「ふだんの1日の睡眠時間が7時間以上」の学生は、年々減少しており、全体の31.6%である。「ふだんは午前0時前には寝ている」という学生は全体の16.1%で減少傾向にある。

「健康のための運動をしている」という学生は、今回の調査時点で39.6%（平成12年度36.5%）で、3年前よりも3.1ポイント増加している。

「タバコをすっている」学生も減少し、27.0%である。

表7 - 4 睡眠と健康について（「はい」の％）

（単位：％）

	昭和 63年度	平成 3年度	平成 6年度	平成 9年度	平成 12年度	平成 15年度
普段は7時間以上眠っている	-	43.3	39.4	40.0	33.9	31.6
普段は午前0時前には寝ている	-	19.6	21.5	19.0	17.1	16.1
健康のために定期的な運動をしている	-	37.2	38.0	36.9	36.5	39.6
タバコをすっている	-	33.2	29.5	29.1	30.1	27.0

ゆとり・余裕について

「授業やレポート作成のためにゆとりの時間がもてない」と回答している学生が全体の54.7%を占め、半数を超えている。

また「パソコンを持っている」学生は急速に増加しており、全体の80.1%を占めている。

「ボランティア活動をしたことがある（している）」と回答している学生は全体の34.8%を占め、一方で「ボランティア活動を今後してみたい」という学生は全体の半数を超え、55.4%を占めている。

表7 - 5 ゆとり・余裕について（「はい」の％）

（単位：％）

	昭和 63年度	平成 3年度	平成 6年度	平成 9年度	平成 12年度	平成 15年度
授業のため勉強やレポート作成のための時間のゆとりがもてない	-	47.5	49.6	48.1	51.3	54.7
パソコンをもっている	-	-	-	36.8	65.7	80.1
ボランティア活動をしたことがある（している）	-	-	-	22.9	30.6	34.8
ボランティア活動を今後してみたい	-	-	-	51.5	50.9	55.4

6. 安心できる大学環境について

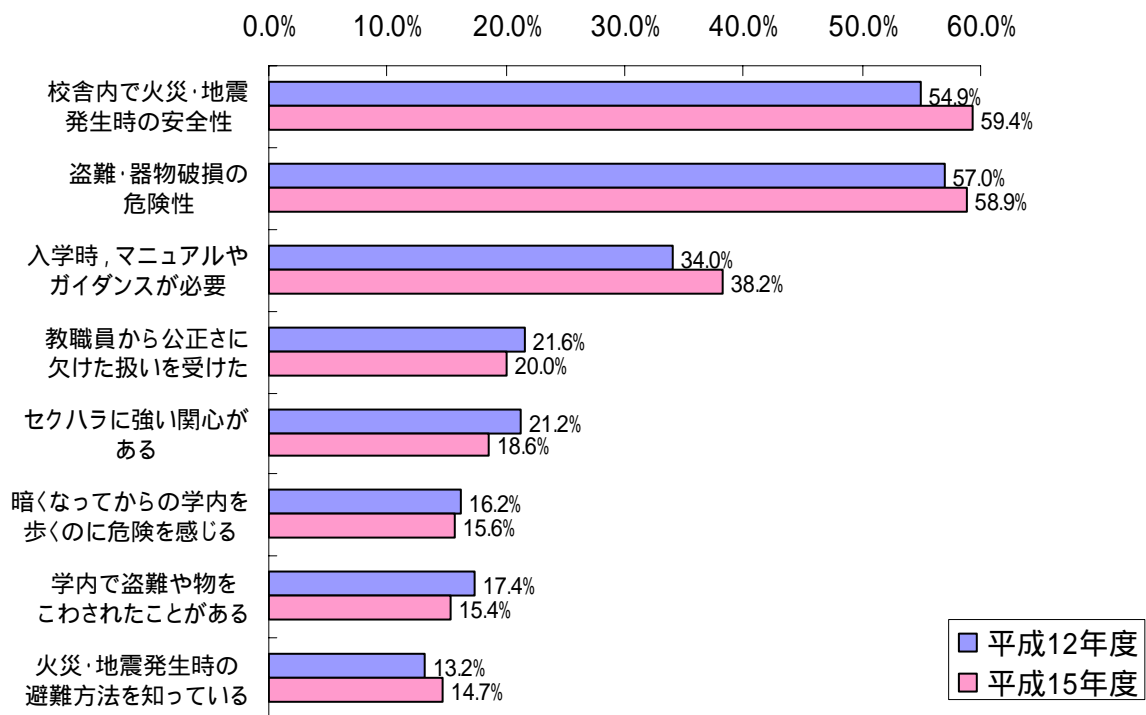
学生が大学内での安全や安心についてどのように考えているのかを整理したのが下図である。

「火災・地震発生時の安全性に不安を感じる」(59.4%)と「学内での盗難や器物破損の危険性を感じる」(58.9%)が安全に対する2大意見である。

次いで、「入学時の学生生活のマニュアルやガイダンスが必要」(38.2%)、「教職員から公正さに欠けた取扱いを受けたことがある」(20.0%)が安心に関する主な意見といえる。

次いで、学生は「セクハラに強い関心を寄せている」(18.5%)、「夕方暗くなってから学内を歩くのに危険を感じる」(15.6%)とつづいている。

図7-7 大学内の安全・安心について(10%以上の項目)



7. 魅力ある大学づくりの要件

日本大学を魅力ある、誇れる大学にするための要件として、「魅力的な授業の多い大学」をあげる人が最も多い。

魅力ある大学づくりのための要件は、「魅力的な授業の多い大学」(42.1%)、「学力的にレベルの高い大学」(36.6%)および「多機能キャンパス大学」(27.1%)となっている。

平成6年度の結果と比較すると、「学力的にレベルの高い大学」は25.2% 36.6%へと急増し、魅力のある授業と学力レベルの高さが大きな要件と考えられている。

図7-7 大学内の安全・安心について(10%以上の項目)

